

Environmental Report 2004

環境報告書 2004



■ 会社概要
(平成16年4月1日現在)

社名	京阪電気鉄道株式会社 (Keihan Electric Railway Co.,Ltd.)
設立	昭和24年12月1日
創立	明治39年11月19日
運輸開始	明治43年4月15日(大阪・天満橋 - 京都・五条間46.57km)
資本金	514億6,641万6,776円
従業員	1,873名(他社からの出向者を含み、他社への出向者を除く)
本社	〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号(OMMビル)
枚方事務所	〒573-0032 枚方市岡東町25番9号
大津事務所	〒520-0047 大津市浜大津1丁目2番18号(京阪大津ビル)
東京事務所	〒100-0006 東京都千代田区有楽町1丁目10番1号 有楽町ビルディング401号

主要な事業内容

- ① 鉄道事業(鉄軌道による旅客運輸)
 - 営業キロ 88.1km
 - 駅数 85駅
 - 車両数 747両
- ② 不動産事業(土地建物の販売および賃貸)
- ③ レジャー事業(遊園地などの経営)

京阪電車沿線案内図



ごあいさつ

昨今、地球規模での環境保全活動の必要性がますます高まりを見せています。これに伴い、社会の一構成員である企業についても、持続的発展が可能な社会の実現に向けて、従来にも増して環境への取り組みが求められるようになっていきます。そして、これが当社にとっても例外ではないことは、改めて申し上げるまでもありません。

本来、鉄道は自動車などに比べてエネルギー効率がが高く、環境にやさしい交通機関です。しかし、当社はこれに甘んずることなく、車両の軽量化や回生ブレーキの導入によって消費電力の削減を図るなど、これまでも環境負荷の低減に鋭意努めてまいりました。さらに、一昨年(2021年)の12月5日には「地球環境の保全は人類共通の重要課題の一つである」との認識に立ち、京阪グループの環境理念を制定し、環境への取り組みを本格化しました。その結果、本年(2022年)3月15日には業界初となる会社全体でのISO14001の認証取得を達成する運びとなりました。

しかし、ISO14001の認証取得は、決してゴールではありません。むしろ、企業の社会的責任を全うするうえでのスタートラインに立ったに過ぎません。当社では、今後も引き続き環境への取り組みを推進する一方、グループ会社へも取り組みの輪を広げることにより、持続的発展が可能な社会の実現に向け、微力ながら貢献してまいり所存であります。つきましては、本書をご高覧の後、当社の環境への取り組みをより充実したものにすため、率直なご意見をお聴かせいただければ幸甚の至りでございます。

末筆ながら、初めての環境報告書の発行に当たり、当社の環境への取り組みに多大なる関心を寄せてくださった皆様に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長

佐藤 茂雄



経営理念

京阪グループは、人の暮らしに夢と希望と信頼のネットワークを築いて、快適な生活環境を創造し、社会に貢献します。

経営姿勢

1. 地域社会、顧客、株主、社員を大切にします。
2. 顧客第一主義を徹底し、信頼される企業グループであり続けます。
3. 常に新しいことに取り組み、自己改革を実現します。
4. 鉄道事業を基幹としたライフステージネットワークを展開し、
快適な生活環境を創造します。
5. 自然環境にやさしい企業運営を目指し、環境の保全や資源の保護に配慮します。

行動規範

4つの「……ために」

- お客様のために
- 私たちのために
- 社会のために
- 会社のために

編集方針

- 作成目的** 当社の環境に対する取り組みや今後の姿勢をお伝えすることを目的として発行しました。
- 作成指針** 環境省「環境報告書ガイドライン 2003年度版」を作成の指針とし、現状で開示可能な範囲の内容を記載しています。
なお、環境会計については次回(2005年度版)から記載する予定です。
- 対象期間** 2003年度(2003年4月1日～2004年3月31日)を報告対象期間としましたが、初めての発行となりますので、一部については報告対象期間外の内容も含まれます。
- 対象範囲** 京阪電気鉄道株式会社を対象としていますが、一部についてはグループ会社も含まれます。
- お問い合わせ先** 京阪電気鉄道株式会社
経営統括室 経営政策担当(環境マネジメント)
〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号(OMMビル)
TEL:06-6944-2529 FAX:06-6944-2584
<http://www.keihan.co.jp>

C O N T E N T S

<p>2 会社概要 京阪電車沿線案内図</p> <p>3 ごあいさつ</p> <p>4 経営理念／経営姿勢／行動規範 編集方針</p> <p>5 CONTENTS ISO14001認証登録証、付属書</p> <p>6 京阪グループネットワーク</p> <p>7 環境理念／環境方針 環境マネジメントシステム —京阪電気鉄道の推進体制—</p> <p>8 法規制の遵守／環境教育 環境活動の沿革</p> <p>9 環境目的・目標 2003年度の環境目的・管理項目 ecoカード</p>	<p>10 鉄道事業における取り組み</p> <p>14 不動産事業における取り組み</p> <p>15 レジャー事業における取り組み</p> <p>16 全社的な取り組み</p> <p>17 グループ各社における取り組み</p> <p>19 事業活動に伴う環境負荷(2003年度)</p>
---	---



当社が取得したISO14001にかかる認証登録証および付属書

京阪グループ ネットワーク

京阪グループでは、当社がグループの全体戦略を構築し、グループ会社(当社の事業を含む)それぞれが自立した企業群として成長を図っています。
具体的には、グループ会社を9つの事業群(鉄道・バス・タクシー・不動産・建設・駅サービス・流通・ホテル・レジャー)に区分し、事業ごとに経営統括責任者を配置し、関与グループ会社の事業執行権限を委譲して群経営を推進しています。



鉄道事業

叡山電鉄(株)
京福電気鉄道(株)
(株)京阪エンジニアリングサービス
(株)京阪レジャーサービス
中之島高速鉄道(株)

バス事業

(株)京阪バスシステムズ
京阪バス(株)
京阪シティバス(株)
京阪バスサービス(株)
京栄写真(株)
ケービー・エンタープライズ(株)
京阪宇治交通(株)
京阪宇治交サービス(株)
京阪宇治バス(株)
京阪宇治交通田辺(株)
江若交通(株)
(株)ザ・コジャック
京都バス(株)
ケーター自動車工業(株)

タクシー事業

(株)京阪タクシーシステムズ
京阪タクシー(株)
滋賀京阪タクシー(株)
敦賀京阪タクシー(株)
(株)トラベル京阪
宇治京阪タクシー(株)
大阪京阪タクシー(株)
汽船タクシー(株)

不動産事業

京阪ビルディング(株)
京阪カインド(株)
京阪電鉄不動産(株)

建設事業

京阪産業(株)
(株)かんこう
(株)ソイルエンジニアリング
(株)文化財サービス
京阪建設(株)
京阪園芸(株)
成幸工業(株)

駅サービス事業

(株)京阪ステーションマネジメント
(株)京阪交通社
(株)京阪エージェンシー
京阪ライフサポート(株)

流通事業

(株)京阪流通システムズ
京阪電鉄商事(株)
(株)京阪百貨店
(株)京阪友の会
(株)京阪ザ・ストア
(株)京阪レストラン
(株)ジューサーバー・コーポレーション
(株)京阪エバーナイス社

ホテル事業

(株)京阪ホテルシステムズ
(株)琵琶湖ホテル
琵琶湖ホテルサービス(株)
(株)ホテル京阪
(株)京阪アーバンシステムズ
(株)京阪リゾートシステムズ
京都タワー(株)

レジャー事業

琵琶湖汽船(株)
琵琶湖汽船サービス(株)
琵琶湖汽船食堂(株)
京阪琵琶湖観光事業(株)
大阪水上バス(株)
比叡山鉄道(株)
(株)樟葉パブリック・ゴルフ・コース
比叡山自動車道(株)
(株)ガーデンミュージアム比叡
京阪福井国際カントリー(株)

その他

(株)大阪マーチャндаイズ・マート
(株)京阪ビジネスマネジメント
(株)京阪フィナンシャルマネジメント
(株)京阪ベンチャービジネス
(株)京阪カード

環境理念

京阪グループは、「地球環境の保全は人類共通の重要課題の一つである」との認識のもと、環境の保全や資源の保護に配慮し、自然環境にやさしい企業運営を目指すことで、持続的に発展できる社会の実現に貢献します。

環境方針

京阪電気鉄道は、京阪グループの環境理念に基づき、鉄道事業を基幹とした様々な事業活動から生じる環境への影響に配慮し対応していくことを社会的責務と認識し、次の通り「環境方針」を定めます。

1.意識の向上

私たちは、環境への影響を常に考えながら業務に取り組み、環境問題に対する意識の向上を図ります。

2.法規の遵守

私たちは、環境に関する法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を遵守します。

3.目的や目標の設定と継続的な改善

私たちは、環境にやさしい事業運営につながる目的や目標を設定し、それらを達成するために仕事の進め方を見直しながら、継続的な改善を推し進めます。

4.環境負荷の低減や環境汚染の予防

私たちは、限りある資源を有効に利用し、省資源・省エネルギーの推進や廃棄物の削減などを図ることにより、環境負荷の低減や環境汚染の予防に努めます。

5.重点実施項目

私たちは、当社の事業活動による環境面での影響の特性を考慮し、次の項目について重点的に取り組みます。

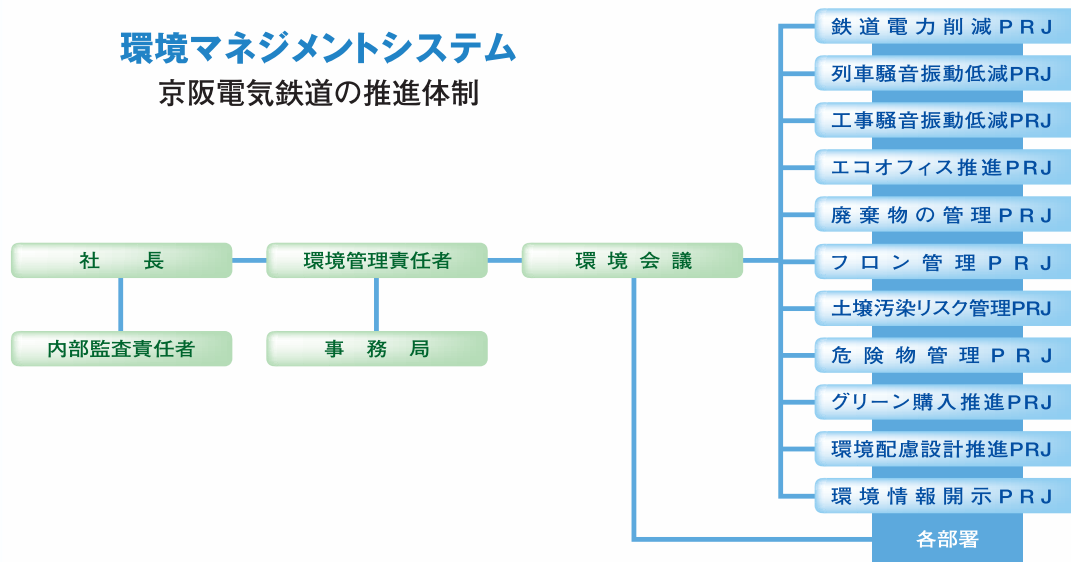
(1) 鉄道騒音・振動の低減 (2) 鉄道電力の削減 (3) 環境配慮設計の推進

6.地域社会への貢献

私たちは、企業市民であるという自覚を持ち、環境に配慮した日常の行動を通じて地域社会に貢献します。

環境マネジメントシステム

京阪電気鉄道の推進体制



法規制の遵守

当社の事業活動に適用される環境関連の法律（法、施行令、施行規則）、命令（政令、省令、内閣府令、告示、通達）、条例、協定などを特定し、各部門における環境管理に確実に反映させ、法規制の遵守に努めています。

環境教育

当社の環境マネジメントシステムを運用するうえで必要な教育訓練を管理する「教育訓練実施項目一覧表」を作成し、環境教育を実施しています。

※2003年度は 役員研修 受講人員 18名
環境運用主要メンバーへの研修 受講人員 159名
内部監査員研修 受講人員 40名



環境教育の実施風景



環境活動の沿革

- 2000年 9月 ひらかたパークがISO14001の認証を取得
(日本の遊園地の同認証取得は初めて)
- 2001年 3月 寝屋川車両基地がISO14001の認証を取得
- 2002年 6月 浜大津アーカスがISO14001の認証を取得
- 12月 京阪グループの環境理念を制定
- 2003年 6月 京阪電気鉄道の環境方針を制定
- 2004年 3月 京阪電気鉄道がISO14001の認証を取得
(全社での同認証取得は鉄道業界で初めて)

環境目的・目標

各部署で生じる環境への影響の原因となる活動や製品やサービスを洗い出したうえで、会社が管理すべき環境改善項目（環境目的）と維持管理項目を下記の1～10に示すとおりに決定しました。
複数部署で横断的に取り組むべき項目については、プロジェクトチームを発足させ、プロジェクトチーム単位で取り組みを推進しました。

2003年度の環境目的・管理項目	
環境目的・管理項目	環境目標・管理
1 鉄道電力の削減	使用電力量の削減
2 列車騒音・振動の低減	列車走行による騒音・振動の低減の実施
	列車走行による騒音・振動等苦情の把握
	列車走行による騒音・振動等実情（定期測定）の把握
3 工事騒音・振動の低減	直営・請負作業の騒音・振動配慮の実施
4 エコオフィスの推進	各種紙・電力・ガソリン・ガス・水の使用量の削減
5 資源・エネルギーの使用削減	資源・エネルギー使用量の把握
6 廃棄物の削減と適正処理	廃棄物の数量把握
	廃棄物管理手順の構築
7 環境リスク管理	フロン、PCB、アスベスト、危険物、土壌汚染リスクの管理など
8 グリーン購入の推進	特定調達品目のグリーン購入
	コピー用紙・帳票類等の再生紙購入
9 環境配慮設計の推進	環境配慮設計の検討実施
10 環境情報開示の推進	環境報告書（2004年度版）の発行

ecoカード

ecoカード

京阪グループの環境理念

京阪グループは、「地球環境の保全是人類共通の重要課題の一つである」との認識のもと、環境の保全や資源の保護に配慮し、自然環境にやさしい企業運営を目指すことで、持続的に発展できる社会の実現に貢献します。



当社では、「環境理念」や「環境方針」を記載した「ecoカード」を全社員に配布し、常時携帯させることにより環境理念・方針の浸透を図っています。

京阪電気鉄道の環境方針

京阪電気鉄道は、京阪グループの環境理念に基づき、鉄道事業を基幹とした様々な事業活動から生じる環境への影響に配慮し対応していくことを社会的責務と認識し、次の通り「環境方針」を定めます。

- 1. 意識の向上**
私たちは、環境への影響を常に考えながら業務に取り組み、問題発生に対する意識の向上を図ります。
- 2. 法規の遵守**
私たちは、環境に関する法規制や当社が受け入れを決めた要求事項を遵守します。
- 3. 目的や目標の設定と継続的な改善**
私たちは、環境にやさしい事業運営につながる目的や目標を設定し、それらを達成するために仕事の進め方を見直ししながら、継続的な改善を推進します。

4. 環境負荷の低減や環境汚染の予防

私たちは、限りある資源を有効に利用し、省資源・省エネルギーの推進や廃棄物の削減などを図ることで、環境負荷の低減や環境汚染の予防に努めます。

5. 重点実施項目

私たちは、当社の事業活動による環境面での影響の特性を考慮し、次の項目について重点的に取り組めます。

- (1) 鉄道騒音・振動の低減
- (2) 鉄道電力の削減
- (3) 環境配慮設計の推進

6. 地域社会への貢献

私たちは、企業市民であるという自覚を持ち、環境に配慮した日常の行動を通して地域社会に貢献します。

この環境方針は、全従業員に周知させるとともに、社外にも公開します。

平成15年6月2日

京阪電気鉄道株式会社
取締役社長 長谷川 誠

■ 鉄道電力の削減

運転・運行による消費電力削減

列車の運転の仕方によって、消費電力を削減することができます。できる限り惰行運転を推進するのそのひとつ。また、回送列車では車内灯（昼間時）や冷暖房をOFFにするなど、消費電力を削減する努力をしています。

一方、昨年9月のダイヤ改正時には省エネ車両の運用を増加、回送列車の走行キロを減らしたことにより、さらなる電力削減を実現しました。

なお、こうした取り組みによる効果をより高めるため、使用電力量の計測データを現場にフィードバックしています。

車両の軽量化

消費電力の削減を図るため、車両の軽量化に取り組んでいます。従来の鋼製車両より軽量のアルミ車両への代替をはじめ、各種装置・部品の軽量化を推進し、従来車両と比べて大幅な消費電力削減を実現しています。アルミ車両は2003年度までに334両を導入しました。

また、車両の軽量化には、列車騒音・振動の低減という効果もあります。



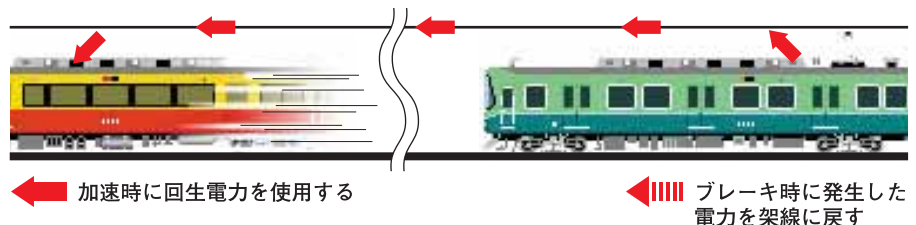
▲大型押出型材で構成したアルミ車体

電力区分の明確化

鉄道電力の区分を①列車の運転に使用する運転用電力と②駅や事務所で使用する付帯用電力とに分けて明確にし、鉄道事業部とお客さまサービス事業部の各部署でそれぞれ使用電力量の削減に取り組みました。

気候の影響にもよりますが、昨年8月から9カ月足らずの取り組みにもかかわらず、運転用電力を前年度比△3.1%、付帯用電力△2.4%の削減を達成しました。

電力回生ブレーキのしくみ



回生ブレーキの採用

モーターを発電機として使用し、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することでブレーキをかける回生ブレーキを採用しています。

発生した電力は架線に戻され、走行中の他の列車が使用することで、消費電力の削減に大きく貢献します。

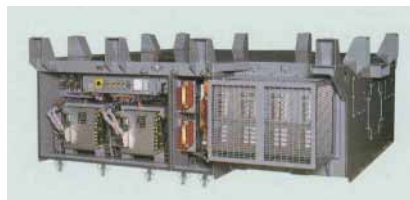
2003年度までに580両に導入しており、今後もさらに導入を進めていきます。

VVVF制御車両への代替

VVVF制御 (Variable Voltage Variable Frequency Control) とは、直流電力を交流電力に変換し、電圧と周波数を変化させることにより交流モーターを制御する方式です。

従来の車両では、直流モーターの速度をコントロールするために抵抗器を使用しており、抵抗器の発熱によるエネルギーロスが生じていました。これに対し、最新のVVVF制御車両は、抵抗器を使用せず高電圧・大電流の半導体を用いたインバータにより交流誘導モーターの電圧と周波数をコントロールするため、電力のロスがほとんどありません。

2003年度までの導入実績は103両で、今後もVVVF制御車両への代替を推進します。



▲VVVFインバータ制御装置

LED表示装置

LED表示装置は、従来の信号電球に比べて消費電力が小さく、長寿命で視認性に優れているという特長があります。当社では、LED表示装置を信号機や踏切警報機へ導入し、消費電力削減や安全性の向上に努めています。

これまでに八幡市一淀間の信号機への導入 (2002年) や京橋一守口市間の信号機への導入 (2003年) など、LED表示装置への切り替えを順次行っています。



■列車および工事の騒音・振動の低減

防音車輪の採用

曲線通過時にレールと車輪が擦れて発生するキシリ音を低減するため、ゴムを巻いたリングを車輪にはめ込んだ防音車輪を採用しています。この防音車輪により、15dB～25dB程度の騒音低減を実現しています。

1998年から使用を開始し、2003年度までの導入実績は本線では415両、大津線では800系の全車両となっています。



CFRP製パンタグラフ集電舟の採用

架線とパンタグラフの集電舟が擦れることで起こる騒音を低減するため、CFRP（炭素繊維複合材）製の集電舟を採用しています。従来のアルミ製の集電舟に比べて、追従性が高いという特長があります。さらに、構造の見直しによる相乗効果で、音圧レベルが低減します。

2002年度に初めて導入され、本線では2003年度で387台中20台、大津線では800系の全車両に導入しています。



レール削正車の導入

レールの表面に凹凸があると、騒音や振動の発生原因となります。レール削正車は、砥石を使ってその凹凸や傷、疲労層などを削ることを目的とした車です。騒音や振動を低減すると同時に、傷の除去によりレールの寿命を延ばすことも可能となり、これによって資源の保護にも貢献しています。

2001年より16個の砥石を使用した16頭式レール削正車を導入し、積極的なレール削正作業を展開し、2003年度には延べ69.5kmを施工しました。



マルチプルタイタンパーの導入

列車が走行するたびに、2本のレールの横方向の高さに少しずつズレが生じます。これが大きくなるほど騒音や振動が増大し、さらにズレがひどくなると脱線を引き起こしかねません。当社では、このズレを直すために、マルチプルタイタンパーという大型機械を導入。レールを理想的な位置に修正したうえでバラスト（線路に敷き詰められている碎石）をつき固めるといった一連の作業を効率的に実施しています。

2003年度には、延べ60.7kmを施工しました。



弾性まくらぎ直結軌道の採用

コンクリート製まくらぎは、木まくらぎよりも耐久性が強く、騒音や振動を低減することができます。そのコンクリート製まくらぎの下面や側面を軟らかいゴムで覆った弾性まくらぎをコンクリート路盤へ直接取り付け付けた軌道構造を採用しました。これにより、さらに列車の走行によって発生する騒音や振動を低減することができます。

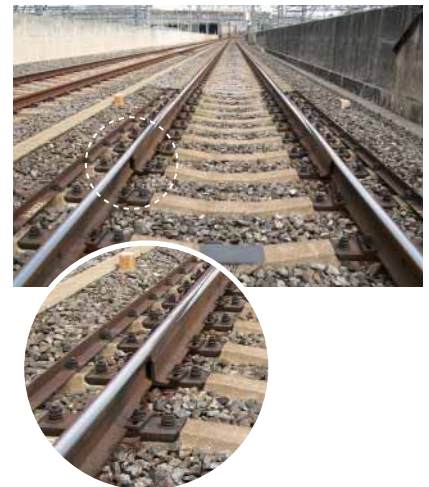
現在、寝屋川高架、淀車庫高架、京都地下線（七条一出町柳間）など、約6,000mにこの軌道が採用されています。



ロングレール化の実施

レールには、温度変化による伸縮に対応するため、継ぎ目が設けられています。「ゴトンゴトン」という列車特有の継続的な振動は、この継ぎ目によるもの。ロングレール化とは、このレールの継ぎ目を溶接して1本のレールにするものです。継ぎ目による騒音・振動が軽減され、より快適な乗り心地を実現します。

当社では、曲線部など、安全性が低下する部位を除き、積極的にロングレール化を推進しています。



資源・エネルギーの使用削減

道床交換作業

道床とは、線路に敷き詰められている砕石のこと。列車の重さを受け止めて分散させ、振動を和らげる働きをします。

何度も電車が通過するうちにバラストの表面や角が削れ、レールの横方向の高さにズレが生じるため、道床の状態を定期的にチェック・交換し、列車走行時の騒音・振動の低減を図っています。



散水装置などの設置

大谷・上関寺・上栄町・札の辻・浜大津・四宮車庫構内に散水装置を設置。さらに、800系3両、600形3両に塗油装置を設置しています。

これらの装置の設置により、レールと車輪の間で発生するキシリ音を低減させることができ、列車運行の低騒音化を実現しています。



騒音の低減

警笛個所の見直しや早朝深夜の駅の自動放送および扉を閉める時の警報音の音量低減など、音の発生源に関してきめ細かなチェックを実施。大津線では、800系車両に従来の空気式警笛よりも音色が柔らかく、騒音が低減できる電子警笛を採用しています。

また、車輪踏面の傷の早期発見と修理、曲線・勾配個所や線路分岐点通過時の速度の抑制などによっても、騒音の低減を図っています。

※1 低騒音型の建設機械の導入

新線建設などの工事では、建設機械の使用に伴い騒音や振動が発生します。当社では、低騒音型建設機械を導入して騒音の低減を図り、より良い地域環境の実現をめざしています。



※2 ミーティングの徹底

作業前に「騒音・振動ミーティング」を実施し、騒音・振動に対する意識を徹底。工事仕様書にも騒音・振動の低減について明記するなど、工事委託会社と一体となり意識の向上と実施内容の理解、意思の統一を図っています。



※1 ※2 写真はいずれも中之島新線建設工事現場のもの。中之島新線については次ページもご参照ください。

鉄道部材のリサイクル

使用後のPCまくらぎや保守作業で発生した銅線くずや鉄線くずなどは、特定リサイクル会社に。

また、密閉式ニッケル電池・ニッケル水素電池・リチウム電池・小型シール鉛蓄電池などは他の電池と分別収集のうえメーカーに返却し、リサイクルを行っています。



乗車券のリサイクル

お客さまにご購入いただくきっぷについてもリサイクルを推進しています。使用済みのきっぷに関しては、自動改札機を通して回収後、パルプと磁性体に分離して古紙として再生しています。

当社では、京阪線全駅と改札内にトイレがある大津線の7駅のトイレに、きっぷをリサイクルしたトイレトーパーを設置しています。

ゴミのリサイクル

駅のホームのゴミ箱を「新聞・雑誌」「カン・ビン・ペットボトル」「その他のゴミ」に分類。お客さまにゴミの分別にご協力いただいています。

2003年度は2,526tが回収され、そのうち新聞やカン、ビンなどはリサイクルされています。



■廃棄物の適正処理

石油使用量の削減

非常用発電機の実負荷試験の回数を削減したほか、運転時間の削減により重油の消費量を削減しています。2003年度は前年度より1,700ℓ削減しました。



▲非常用発電機とその内部▶



洗車時における節水

車両を洗車する際には、汚れの場所や程度に応じて前面洗車・側面洗車・洗車中止などに分類したほか、汚れの程度に応じて洗車速度をコントロールすることで効率的に水を使用し、水使用量を削減しています。



フロンへの適正処理

破棄される空調機に関しては、フロンの適正な回収および破壊処理の実施を推進。

各部門で使用される空調機のフロンなどの使用設備台帳を作成し、新設および廃止の管理を徹底しています。

2003年度の破棄された空調機、チリングユニット(小型冷凍機)に関しては、100%のフロン回収・破壊を実施しています。

■環境配慮設計の推進

工事における設計

工事の設計では、消費エネルギーを最小化するインバータ制御機器の採用を推進しています。

また、消費電力量が削減できるLED機器を採用するなど、環境にやさしい施設・設備づくりをめざしています。

各工事では、「環境配慮設計チェックシート」を作成するなど、計画的に取り組んでいます。

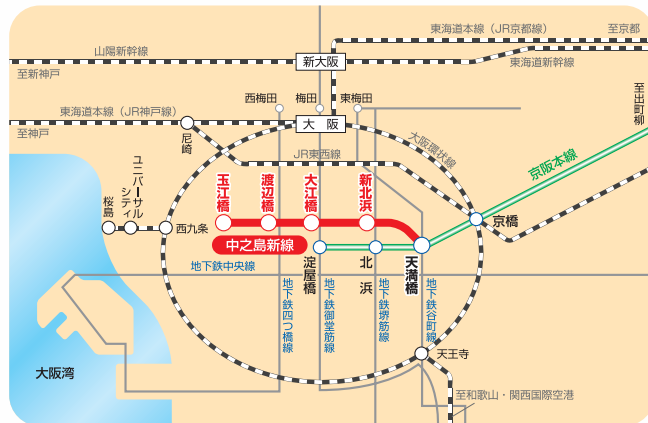
中之島新線建設工事

中之島高速鉄道(株)と当社では、環境保全をキーワードに、2008年度の完成をめざして中之島新線建設工事を施工しています。

この工事によって排出される工事残土等の運搬には、川に近接した場所での施工という地の利を生かし、トラック輸送に比べてCO₂やPM(粒子状物質)等の排出を削減することができる「舟運」を利用するなど、環境に配慮しながら工事を進めています。

■事業のあらまし

- ① 事業主体 / 建設・保有:中之島高速鉄道(株)(第三種鉄道事業者)
運 行:京阪電気鉄道(株)(第二種鉄道事業者)
- ② 区 間 / 玉江橋-天満橋
- ③ 建設延長 / 約2.9km
- ④ 新設 駅 / 玉江橋駅、渡辺橋駅、大江橋駅、新北浜駅(各駅とも仮称)



(新駅の名前は仮称)



工事残土を舟運を用いて搬出する様子 ▶



▲くずはタワーシティ

省エネルギー設計の追求

分譲マンションの設計において断熱性能の向上に配慮するなど、省エネルギー設計によりお客さまに優れた経済性をお届けすることはもちろん、エネルギーを消費することによって発生するCO₂を抑えることにより、地球環境の保護にも配慮しています。

SI住宅の採用

SI(スケルトン・インフィル)住宅とは、長期間の耐久性と間取りなどの変更のしやすさを併せ持った集合住宅のこと。建物を構造躯体(スケルトン部)と設備内装(インフィル部)とに分離し、配管設備などの劣化しやすい部分のリフォームを容易にしました。そのため、従来は平均寿命が20数年と言われていたマンションを、100年以上長持ちさせることが可能になりました。

また、ニーズに合わせた間取りの変更などにより、解体と新築の繰り返しというムダを減らそうというSI住宅の発想は、地球資源への配慮に他なりません。

当社では、くずは駅前地上41階建ての「くずはタワーシティ」にSI住宅を採用しました。現在施工中の京阪東ローズタウン「ファインパーク」も同様の考えに基づいて計画しています。

工事騒音・振動への配慮

マンションや造成などの工事の際使用する機械は、国土交通省告示で指定されているものを採用。また、騒音や振動を軽減するための運転方法の追求、さらに作業員への意識づけなど、きめ細かな教育を実施しています。

工事における環境影響を削減

賃貸施設の工事では、設計段階から環境に配慮。

チェックシートを活用して該当項目を抽出し、環境影響を減らす方法を検討しています。また、発注時にもその意図を伝え、より環境にやさしい工事を実現しています。

さらに、工事に伴う産業廃棄物の処理についても、マニフェストに基づく管理を徹底。適正な処理によって、環境への負荷を抑えています。

緑化推進による環境との共生

分譲マンションにおいては、緑の豊富なランドスケープを実現するとともに、屋上緑化にも力を入れています。

都市部のヒートアイランド現象を抑えるだけでなく、建物自体の断熱や防音にも効果を発揮。さらに、住まう人の憩いのスペースとしての役割も果たしています。

雨水の有効利用

水も地球の大切な資源のひとつ。ところが、工業化や環境破壊によって、水不足が国際問題化しています。

当社の分譲マンション「くずはタワーシティ」「ファインガーデン」では、こうした状況に対応するため、雨水を有効利用した^{かん}灌水利用システムを採用し、マンションを彩る植栽への水やりなどの場面で活用しています。

コンポスト処理による生ゴミ削減

企業から出る膨大なゴミを焼却することで、ダイオキシンやCO₂が発生し、環境に悪影響を与えています。

「京阪東ローズタウン」の事務所では、こうした状況を少しでも改善するために生ゴミの削減に着手。生ゴミ処理機によって生ゴミを分解し、コンポスト(堆肥)として再利用を図っています。

環境配慮への意識向上

省エネルギーや環境保護の実効性を高めるうえでは、そうした取り組みに対する素素からの社員の意識が大きな役割を果たします。

そこで、社用自動車から離れる際には必ずエンジンを切る「アイドリング・ストップ」運動を推進。ダッシュボードにステッカーを貼付することで、社員一人ひとりの意識向上を図っています。



▲社用車

アイドリング・ストップ
実施中
自動車から離れる時は、必ず
エンジンを止めましょう!!

▲ステッカー

一般廃棄物の保管改善

当社が運営するテナントビルでは、一般廃棄物の再資源化を容易にするべく、分別排出、分別保管の徹底を各テナントに提案。

各テナントのご理解もあって、理想的な環境保全活動を推進しています。

レジャー事業における取り組み



■ひらかたパークの取り組み

ひらかたパークは、「花と緑と水そして光」をコンセプトとする1995年からの大規模なリニューアル工事の実施により、「ひらパー」の愛称で親しまれる新しい遊園地に生まれ変わりました。そして、2000年9月には、日本の遊園地で初めてISO14001の認証を取得。スタッフ一丸となって地球にやさしい遊園地をめざしています。



チケットのリサイクル

お客さまから回収するチケットは膨大な量になりますが、これを一般廃棄物と分別し、業者を介してリサイクルし、トイレトペーパーとして再生・利用しています。



ゴミの分別・圧縮

園内に「もえるゴミ」「ペットボトル」「あきかん」の3種類のごみ箱を設置し、お客さまにご協力をお願いしています。また、回収後、ペットボトルはフタと本体とに、空き缶はアルミ缶とスチール缶とに手作業で分別のうえ、それぞれを圧縮して廃棄業者やリサイクル業者に引き渡しています。



環境教育の実施

アルバイトや委託業者のみならず、一時的に出入りして電気・ガス・水道ほかの工事に従事される方々に対しても同園の環境活動を理解していただき、騒音の低減や廃棄物の削減など、環境に配慮した作業の実施をお願いしています。

騒音対策

近隣にお住まいの方々にご迷惑をお掛けしないよう、園内放送やイベントでの音響効果などに対し、自主基準を設けて騒音の低減に努めています。



その他

遊園地という施設の性格上、電気や水の使用量が入園者数や天候（特に気温）に左右されやすく、しかも事前に予想が立てにくいのが実情です。そこで、少しでも目標数値に近付けられるよう、事務所内のクーラーに節電ステッカーを、園内のトイレへ節水ステッカーをそれぞれ貼付しているほか、閑散時における遊戯機の運転台数削減・消灯を実施するなど、折に触れてスタッフの省エネルギー・省資源に対する意識の向上を図っています。



▲節電ステッカー



▲節水ステッカー



▲「ジャイアントドロップ メテオ」

お客さまのご利用状況に合わせて稼働台数(全3台)を調節しています。
(写真では、お客さまが利用しておられる左側のみが稼働しています。)



全社的な取り組み

■ エコオフィスの推進

電力消費量の削減

省エネルギーを進めるうえで最も基本的かつ効果的なことは、「使わない時には電源をOFFにする」ということです。そこで、各オフィスでは、休憩時間中には消灯して電力消費量の削減を図っています。また、長時間使用しないテレビなどの電気製品のプラグをコンセントから抜くことで待機電力をカットしたり、空調機器の設定温度にも一定の基準を設けて無駄を省いたりしています。



▲節電モードに設定したコピー機

ペーパーレス化に向けての取り組み

コピー用紙やFAX用紙をはじめ、各オフィスで日々消費される用紙類は膨大な量に上ります。その一方で、世界的な規模で森林破壊が進行し、紙の原料となる森林資源の保護が強く求められています。そこで、電子メールによる資料配布や両面コピーの活用などを積極的に行い、可能な限りのペーパーレス化に全社を挙げて取り組んでいます。



▲部署ごとにコピー用紙の使用枚数を管理

■ グリーン購入の推進

グリーン購入の推進をめざして、①特定調達品目のグリーン購入率②帳票類等の再生紙製品購入率③コピー用紙の再生紙製品購入率の3点につき数値目標を設定しています。2003年度は①を除いて十分に数値目標をクリア（①についても、数値目標100%に対し、達成率は99%）できましたので、今後は更新時期を迎えた空調機器の購入に当たっても、グリーン購入法に基づく判断基準に適合した製品の購入を進めるなど、より高いレベルを追求していきます。



▲グリーン購入の一例（コピー用紙）

グループ各社における取り組み

《株》琵琶湖ホテル

同社では、2002年8月29日にISO14001の認証取得を果たしました（ISO9001とのダブル認証取得は業界初）。1998年10月の新築・移転に伴って、未来型リゾートホテルとしてスタートした琵琶湖ホテルは、空調設備・衛生設備・電気設備の仕様・運用に当たり、環境に配慮した様々な取り組みを行っています。また、琵琶湖の自然に触れて里山を体感していただくエコツアー「里山塾」の開催や、環境にやさしい棚田で収穫された棚田米のメニュー採用などにより、ホテル設計時のデザインテーマである「自然との共生」を体現しています。



▲「里山塾」の様子

環境理念《株》琵琶湖ホテル》

自然と調和し、豊かな環境と文化づくりを目指し、環境保全への取り組みにより、「かけがえのない地球」と「美しい琵琶湖」を未来に引き継ぐことを環境理念としてホテル事業活動を行います。

叡山電鉄(株)

同社では、1995年4月から約8年間にわたりデザイン電車「エコモーション」を運行し、環境の大切さを呼び掛けました。「エコモーション」とは、ECOLOGY（エコロジー）とLOCOMOTION（列車）とEMOTION（感動・情熱）を合わせた造語で、車体のデザインは米国の著名なアーティストであるアレックス・ボーズ氏に担当していただきました。昨年7月からは、「エコモーション」に代わるものとして「こもれび」を運行していますが、その車体には沿線の四季の変化と沿線に生息する動物をリアルに描く一方、自然・環境をテーマにした車内ギャラリーを開催するなど、「エコモーション」の精神は「こもれび」にもしっかりと受け継がれています。



▲エコモーション



▲こもれび

グループ各社における取り組み

京阪バス(株)・江若交通(株)

京阪バス(株)では、環境にやさしいCNGノンステップバスの増車を進めています。CNGバスは圧縮天然ガス(CNG)を燃料とし、ディーゼルエンジンを使用する通常のバスに比べ、排気ガス中に含まれる窒素酸化物を大幅に低減し、黒煙や硫黄酸化物を一切排出しないという特長があります。昨年3月から導入を開始し、現在は4台を営業運転に供していますが、来年3月までにさらに2台増車を予定しています。一方、江若交通(株)では、本年3月19日に制定した全7項目から成る環境方針ののっとり、ISO14001の認証取得に向けて、①CO₂の排出抑制(アイドリングストップ・エコドライブの実施)②エコオフィスの推進③廃棄物の排出抑制④グリーン購入の推進⑤バス乗車密度の向上に取り組んでいます。



▲京阪バス(株)のCNGノンステップバス



▲江若交通(株)のノンステップバス

環境方針《江若交通(株)》

近畿の水がめ「琵琶湖」を抱える滋賀県を経営基盤とする私ども江若交通は、道路運送事業を行うに当たり、環境問題の重要性を認識し、環境に配慮した事業活動に取り組み、地域の皆様に愛される企業を目指します。(以下に続く7項目は省略)

(株)京阪百貨店

同社では、本年4月1日、社内に「環境委員会」を設置し、環境保全・改善を図る取り組みを開始しました。従来、空き缶・ペットボトル・食品発泡トレー・牛乳パックの回収をはじめ、ハンガーリサイクルの推進、地下水の利用、清掃奉仕活動の実施などにより一定の成果を挙げてきましたが、環境方針ののっとり、本年10月に環境マネジメントシステムをスタートさせました。「すがたも心もきれいな百貨店」というストアイメージにふさわしい環境対策を引き続き実践していきます。

環境方針《(株)京阪百貨店》

■基本方針

京阪百貨店は企業理念にもとづき、環境への対応を経営の重点課題として捉え、快適で継続可能な生活環境の創造に向け、百貨店業として「お客様第一」を基本に環境保全に配慮した事業活動を行います。(以下に続く行動指針5項目は省略)

(株)大阪マーチャндаイズ・マート

同社では、昨年11月26日、社内に「EMS(環境マネジメントシステム)委員会」を設置し、ISO14001の認証取得に向けてキックオフ宣言を行いました。本年12月の認証取得をめざし、グリーン購入や省エネルギーの推進、分別回収の徹底による資源リサイクル率のアップなどの環境保全活動に、テナントの皆様や警備・清掃業務をはじめとする委託協力会社と一体となって積極的に取り組んでいます。



▲京阪百貨店 守口店



▲OMMビル

事業活動に伴う環境負荷（2003年度）

インプット（エネルギー・資源使用量）

電力	266,455 千kWh	現像液	540 ℓ
ガス	65 m³	定着液	480 ℓ
水	408 千m³	X線フィルム	100 kg
ガソリン	20 kℓ	保管・管理	
紙	5,664 千枚	PCB	
アセチレンガス	158 kg	PCB含絶縁油	80 ℓ
塗料	8,263 kg	PCB含浸蛍光灯安定器	849 台
車両用洗浄剤	5,415 kg	PCB含高圧コンデンサー	14 台
		ハロン消火設備	
		チソソ消火設備	20.3m³ 8本
			0.5m³ 1本
			計162.9m³を保有

運転用電力（京阪線）	183,004 千kWh
運転用電力（大津線）	8,662 千kWh
付帯用電力	73,850 千kWh
エコオフィス（電力）	939 千kWh

アウトプット

廃棄物排出量

事業系一般廃棄物	3,047 t
産業廃棄物	90,534 t
建設発生土	19,369 t
コンクリート塊	37,440 t
アスファルト塊	3,890 t
建設発生木材	233 t
汚泥	18,406 t
建設混合物	239 t
金属類	10,787 t
廃プラスチック	159 t
ガラス	2 t
陶磁器屑	7 t
油泥	2 t
特別管理産廃	201 t
廃油	200 t
その他	1 t
その他	26 t

CO₂排出量

電力	100,720 t
ガス（都市ガス）	137 kg
燃料（ガソリン）	46 t

